

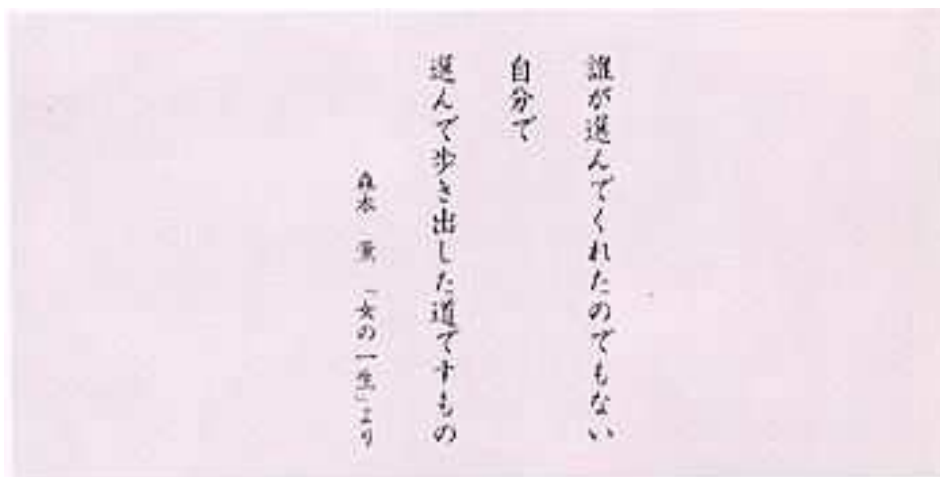
1 森本 薫文学碑

■場所

北区中津二丁目
中津公園内

■交通

地下鉄:中津(5番出口)
阪急:中津



森本 薫(1912年～1946年)

森本薫は、明治45年(1912年)大阪府西成郡中津町下三番(現大阪市北区中津六丁目)に生まれ、昭和21年(1946年)10月6日死去した。

中津第二尋常小学校(現中津南小学校)、北野中学校(現北野高等学校)、第三高等学校(現京都大学)を経て、京都帝国大学文学部英文科にすすんだ。

大学在学中の昭和9年、雑誌『劇作』に発表した「みごとな女」一幕は、岩田豊雄(獅子文六)の激賞するところとなり、のち、文学座により上演、新劇界に新風をもたらした。

このころ、『劇作』の同人となる。昭和10年、「かどで」「華々しき一族」を、翌11年には、「かくて新年は」「衣裳」と次々に作品を発表し、その華麗な人間模様と機知にあふれた清新な戯曲は、作者の早熟ぶりとともに世の注目を浴びた。

昭和12年大学を卒業、翌13年上京。昭和15年、岩田豊雄のすすめにより文学座に入座。以後、「富島松五郎伝」の脚色、「怒濤」「女の一生」等の戯曲をはじめ、翻訳、ラジオ・ドラマ、映画シナリオの執筆と、多彩な活動を展開した。

その作品は、わが国の戯曲がそれまでもち得なかったような、近代的で、知的な感覚にあふれた心理喜劇の作品と、非凡な劇的技巧によって大衆の心をつかむ作品とに大きく分けられるといわれている。

「女の一生」は、明治、大正、昭和の時代を激しく生き抜いた女の一生を描き、万人の共感を得た作者の絶筆となった作品であり、昭和20年、久保田万太郎の演出により初演された。また、名優杉村春子は、布引けい役で戦後初の芸術院賞を受賞した。

墓所は、京都市上京区一条通御前通西入の成願寺。